

## モスルの血の池：我々はあらゆる者を殺した——IS、男、 女、子供

【訳者注】これは「モスルの大虐殺」で、「人間の悲惨の最大級のもの」と論者が言っているものが、どんなものであるかを、現地取材によって、あらゆる感覚に訴えるように、リアルに、具体的に説明している。我々は自然災害のあらゆる体験をしているが、人間の悪意と残虐によるこういう惨劇は、原爆以来、経験していない。日本の被災者を軽く見るのではないが、これが本当の“地獄”というものであろう。人間は、強い意志をもって、地獄のために地獄を作り出すことができる。

ここで印象的なのは、大破壊の跡地の始末で、ブルドーザーが人間の死体を、砕いた瓦礫と共に、こね混ぜて目立たないようにしようとするが、死体の腐敗していく断片は「赤褐色に微光を放ち…死者はどこかへ消えることを拒否する」と言っているところである。

この戦いの作り出す地獄は、シリアや、イエメンの戦いもそうだが、いわゆる付随的損害（collateral damage、やむをえず市民にかける迷惑）ではない。また「動くものは何でも殺せ」と命じられたというが、これはベトナム戦争での、ニクソン大統領の命令と同じである。やはりここに見られるのは、霊的・「純粹悪」的次元の現実である。

MEE 寄稿者

July 27, 2017, Information Clearing House

イラクの兵士たちは、IS との戦いの最後の数日は、残忍な、最終的命を受けた——動くものは何でも殺せ。結果は瓦礫の中につぶされて発見される。



そのイラク兵士は、三方に壁の残った、ある小さな部屋から、すべて倒壊し、急勾配にチグリス川の土手まで続く、瓦礫の荒野を見やった。そして、イスラム国集団との野蛮な戦いの、最後の数日をこう述懐した——

「我々は彼らすべてを殺した」と彼は静かに言った。「ダーイシュ、男、女、子供、す

べてだ。我々はすべてを殺した。」

このモスルの旧市街の残った部分、IS の戦闘家が最後の抵抗をした部分と、その下に横たわるものは、この戦いの慄然とする最後の日々を物語っている。

何百という死骸が、かつては賑わった、歴史的な区域の、破壊された石構造と瓦礫の中に、半ば埋もれて横たわっている。攝氏 50 度の夏の暑さの中で、急速に腐敗していく肉の悪臭が、我々の感覚を圧倒する。

脚部が、遺骸の最も目立つ部分だ。多くの足が瓦礫の中から突き出している（写真下）。

最後の殺しの修羅場は、その跡を残している。そして、これを覆い隠したがっている何人かの様子が見て取れる。



先週には、武装したブルドーザーが、完全倒壊した民家を縦横に轆きまわし、数に入っていない死骸を瓦礫の中に混ぜ込んでいた。

しかし死者は、どこかへ消えることを拒否する。腐りかかった死体の断片は、石構造と埃と壊れた建物の、起伏する風景の灰白色の中に、赤褐色の微光を放っている。

「死体の中には沢山の市民が含まれている」と、あるイラク陸軍少佐は MEE に話した。「解

放が宣言された後、何でも、誰でも、動くものは殺せという命令が出されたのだ。」

名前を伏せるという条件のもとで、少佐は、この命令は間違っていたが、軍隊は従わねばならなかったと言った。

「それはやってはならないことだった」と彼は言った。「ダーイシュ隊員のほとんどは降伏していた。彼らは手をあげていた。しかし我々は彼らを殺した。」

## 我々はほとんど捕虜をつくらない

少佐は、イラク兵のある者たちの言っている、バグダッドの牢獄はすでに満員で、これ以上 IS の捕虜を収容することはできないという主張を、嘲笑する。

「それは違う、我々は沢山の捕虜を取っている。しかし今、我々は、これまでのように捕虜を扱ってはいないのだ」と彼は言う。この戦争の初めのころは、我々は、沢山のダーイシュを逮捕し情報局へ連れていった。しかし今、逮捕はほとんどしていない。」

月曜日に、何人かのジャーナリストが、一人の IS の捕虜が、旧市街の廃墟になった通りを、特殊部隊によって引きずられていくのを目撃した。

この男は縛られ、首のまわりにロープを巻かれていた。ジャーナリストたちは、メモ・カードを兵士たちに没収され、退去を命じられた。

「ここには今、法は存在しないのだ」と少佐は言った。「毎日、我々はダーイシュと同じことをやっているのを、私は見ている。人々は渴きで死にそうなので、川へ水を汲みに降りてくる。すると我々は彼らを殺すのだ。」

死体が、チグリス川の西岸に並んでいる。空爆で殺された者、戦闘や処刑による死者、また餓えや渴きで死んだ者。ある者は岸に打ち上げられ、他の者は青い水の中に浮いている。身体の小さい者たちもいる。それは子供たちだった。

7月17日に、社会メディアにリリースされたフィルムには、イラクのヘリコプターが、9カ月のモスル争奪戦の最後の空爆と信じられているものを、行っている場面が映し出されている。

軽快な勝利の音楽のサウンドトラックに合わせて、ヘリコプターが、広い川を泳いで旧市街

を脱出しようとする必死の人々を、狙い撃ちしている。

そのあたりでは、兵士たちが、瓦礫や死体の断片の山の上に、ポールを突き立てたイラク国旗の前で、勝利の記念写真のポーズしている。

彼らは、自分たちが動き回るあたりの死の風景には、慣れっこになっている。この長い戦争の残忍さと、彼らの敵の野蛮さは、イラク軍にも乗り移っている。人間らしさというものは、ほとんど残っていない。

先週後半、イラク軍はいまだに、瓦礫や倒壊した建物から出てくる IS 軍の、射撃や手りゅう弾によって、時々攻撃を受けていた。

木曜日には、一人の兵士が IS の死骸だと思って近づくと、死んだふりをしていた IS 兵士が、ピストルで彼を撃ち殺すということがあった。

瓦礫の下にはまだ人が生きている。月曜日には、4 人の IS 隊員——2 人の外国兵と 2 人のイラク兵——隠れているのが見つかった。4 人とも射殺された、とそこに駐留していたイラク兵は言っている。

これらは、おそらく比較的少ない生き残りの例であり、ある者は地下の隠れ家から、いまだにイラク軍を狙い撃ちしている。

先の木曜日、イラク軍兵士 **Haidar** によると、中に人のいる 8 つのトンネルが、軍によって確認されたが、それは先に逃げた女や子供への聞き込みによって、わかったことだった。

「我々の区域には 3 つある。一つのトンネルには、6 人のイラク人ダーイシュ兵士がおり、もう一つには、9 人の女を含め 30 人いる。もう一つには、何人いるか正確には分からないが、出てきた者たちは大勢だと言っている」と彼は言った。

こうした人々がどうなったかは、分かっていない。しかし木曜日以来、廃墟から生きて出てきた市民は、きわめて少ない。

食糧や飲み水の貯えは、地下には非常に少ないか、全く存在しない。



チグリス川に浮かぶ死骸

瓦礫から出てきた最後の市民たちは、強制収容所の囚人たちに似ていた。その多くは 2 週間食べていないと言い、死の直前の人もいた。

先の水曜日、餓死寸前の 11 歳の Yazidi 教の少年が、野戦病院に入院して、極端な脱水と栄養不良の治療を受けたが、彼は、他の 4 人の子供が渴きで死んでいくのを見ていたと話しながら、泣いた。

IS は、この少年と彼の 13 歳の姉を、2014 年、イラクの Sinjar 山の故郷の町から誘拐したが、姉は 30 日前から見えなくなったと言っている。

IS は、何千というヤジディ教徒を虐殺したが、彼らはその古くからの信教を悪魔崇拜と呼び、それよりも多くの女性や子供たちを捕虜にした。

「我々は彼らに何も与えるつもりはない」と、ハイダーは木曜日、言った。「きのう、兵士の一人が憐れみから、市民が閉じ込められていると思った、ある穴へ、水のボトルをしゃがんで手渡した。すると IS 兵士が、彼の肩から銃をもぎ取ったのだ。それは M4（襲撃用ライフル）だった。」

川の近くで、ブルドーザー運転手のフセインは、自分の仕事は、瓦礫を片付け、怪しげな穴の入り口をふさいで、可能な IS の活動を妨げることだ、と言った。

「私は穴をすべて瓦礫でふさいで、ダーイシュが再び出てこれないようにしている」と彼は言い、もしかしたら、人々を生き埋めにしているかもしれない、と付け加えた。

「トンネルのいくつかは、長く伸びて、どこか別の場所へ出られるかもしれない。しかし私の仕事は、彼らが再びこれらの穴から、出てこれないようにすることだ。」

## 死は至るところにある

数週前に解放された旧市街区域でも、死はまだ立ち去らないでいる。

破壊されたアル・ヌーリのモスクの遺構の近くに、女性 IS 信奉者の黒くなった頭部が、クレーターの脇に横たわっている。彼女は逃げていく女や子供たちの間で、自爆したのだ。

近くの砂の中に、ヘア・ブラシ、流行のハンドバッグ、カラフルな服——人々が持って逃げたいと願うような小物——が、女性の片脚とともに残っている。

一匹の猫が、新しい肉切れを口から垂らして、廃墟となった通りをさっと横切る。明らかに人間のものだ——旧市街には、死んだ人々のものしか肉は残っていない。

新しい死骸が、旧市街のいろんな場所になおも出現している。そのいくつかは明らかに、至近距離で頭を撃ち抜かれ、処刑されたものだ。

その多くは、いまだに縛られた手と足からロープを引きずっている。これは彼らが、死んだか生きているかの状態で、人気のない通りを引きずられたことを示している。その多くは、腐敗臭を抑えるために火を付けられている。

イラク軍は、誇らしげに、旧市街戦の最後の段階で、少なくとも 2,000 の IS 隊員を殺したと言っている。これらの多くは外国人兵士だった。

誰も死んだ市民——逃げられなかった女性や子供——の数をあげる者はいない。

ブルドーザーが、瓦礫と死骸を掻き回して、その土地の上を行き来するやり方は、モスルの戦いの最後の血の池で失われた人命の、本当の数がわからないことを意味する。

かつて気品の高かった、歴史的なモスルという都市は、今、どこまでも広がる墓場——まだ始まったばかりの 21 世紀の、最も無慈悲な戦いの一つに捧げる、崩れ落ちて平たくなった記念碑となった。

